

MIM 活動

ヘッドバンドを使った特殊音節指導

作成者： 幕張インターナショナルスクール 国語ラーニング・サポート・アシスタント 久保 晶子

2018/11/18

活動目的：特殊音節を含むことばの読み書き練習

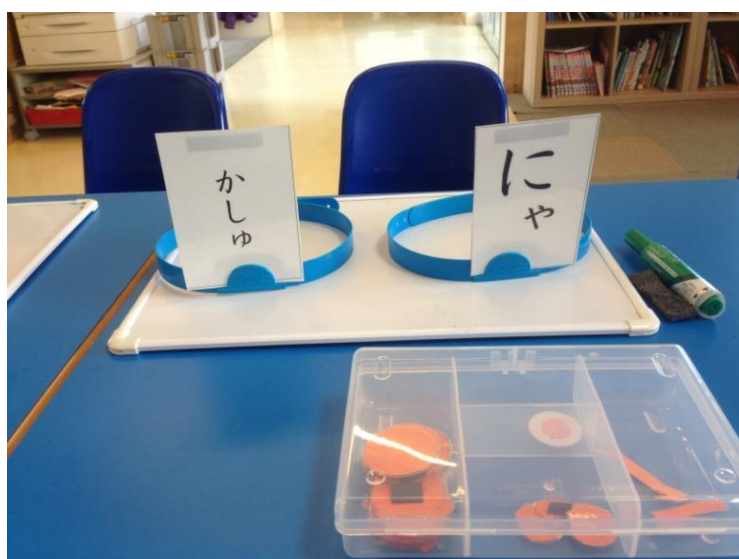
人数：2人からクラス全員

用意/使用するもの（写真1）：

- 特殊音節を含むことばカード（複数枚）
 - ◇ 拗音、拗長音は、子どもの習得度に応じて1モーラ表記のみのカードから始めても良い。

以下は人数分（各自1つずつ）、ホワイトボードマーカー

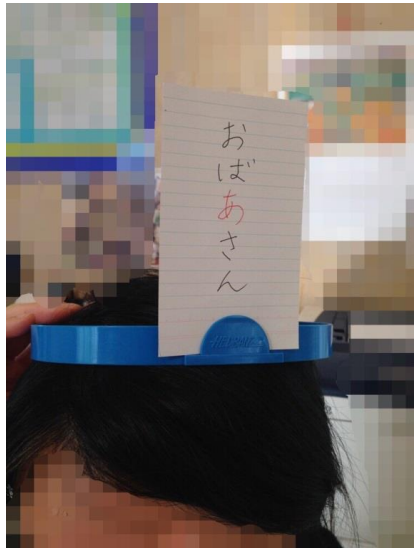
- ヘッドバンド（厚紙と輪ゴムで手作りしても、ハチマキでも代用できる）
- ホワイトボード（A4～A3くらいの大きさ）
- ホワイトボードマーカー
- ホワイトボードマーカー消し
- MIM 視覚化シンボル（子どものホワイトボードで使える大きさ）
- ポイント（私は、算数セットの数え棒を使っている。何でも代用可。黒板や児童のホワイトボードに正の字を書いていっても良いと思うが、子どもが自分で消したり足したりできない、形があり集めるものを使った方が楽しいと思う。）



（写真1）用意するもの

遊び方：

- ① 子どもたちは、頭にヘッドバンドをつける（写真2）。



（写真2）

- ② 子ども1人に、ホワイトボード、マーカー、消し、MIM 視覚化シンボルセットを配布。
 - ホワイトボードにマグネットでマーカー、消し、MIM 視覚化シンボルをつけて、歩き回りながら色々な友達と活動できるようにすると楽しい。
- ③ 教員（支援員）が、こどものヘッドバンドにことばカードをセットする（写真2）。
 - 慣れてくると、子供たちは待ちきれず、自分で新しいカードを取ってセットするようになる。2人組で、裏返したことばカードを重なり広げて置いた場所から引いて自分でセットしても良い。この時、ことばの面が相手から見えるようにセットする（写真2）。
- ④ 教員の「よーい、スタート！」で、子どもたちは友達に「読んで」と言い、頼まれた友達は相手のヘッドバンドカードに書いてあることばを正しく読む。
 - この時、親切な子、積極的な子は、MIM の動作をつけてことばを読んであげている。
- ⑤ ヘッドバンドにあるカードのことばを読んでもらったら、自分のホワイトボードに MIM 視覚化シンボルを置いて、その隣にことばを書く。できたら先生に見せて、合っていたらポイントをもらう。間違っていたら、そこで先生と練習。
 - 次第に、子供どうしで確認し、教え合うようになっていく。
- ⑥ できたらポイントをもらい、新しいカードで①～⑤を繰り返す。

活動のポイント：先生の話（ティチャートーク）は最小限に、短く、少なく！子どもたちが主体の活動です。教員の役割はファシリテーター。楽しいので、子どもたちは時間を忘れて、どんどん自分から書きます。間違いを教員が訂正するときは、子どもが意欲を失わぬよう「惜しい！もう一度手をたたいてごらん」と少しずつ一緒に確認していきます。そして、少しでも出来ている部分を褒めてから、「こうすると、もっと良くなるよ！」と直します。一番良いのは、子どもたちは相手の言葉カードを見て、互いに助け合い、教え合い、正しい答えを導き出すことで、楽しさが増します。ここまで来ると、先生は座ってニコニコして活動を見守るだけです。